

医療の
現場から

山田記念病院に新型DSA導入 脳のカテーテル治療も可能に

■DSAとはどのようなものなのでしょうか。

脳神経外科の主な仕事は、脳血管障害や脳腫瘍、頭部の外傷や先天的な異常などに対して手術による治療を行うことであり、これを「脳外科手術」と言います。一方でカテーテルと言いまして、血管の中に細い管のような器具を入れて治療する方法があります。心臓の疾患や足の血管の治療でご存知の方も多いと思いますが、20年くらい前から、脳の領域でもカテーテルによる治療が出来るようになってきていて、これを「脳の血管内治療」という風に表現します。その為の医療機械が「脳血管撮影装置（DSA）」です。これを今回刷新し、診断のための撮影にのみ対応していたものから、血管内治療にも対応した新しい装置となりました。

血管内治療に対応したDSAは大都市圏の病院では一般的になりつつありますが、三原のようなコンパクトな街ではまだ当たり前とまでは言えない。そういう大切な医療機械がこのたび山田記念病院に導入されたという事になります。

■DSAにより何がかわるのでしょうか。

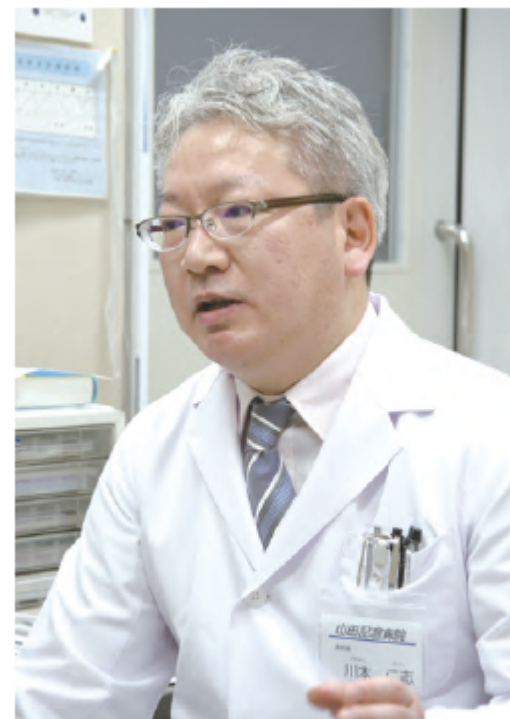
病態により、「開頭手術が必要な場合」「血管内治療が必要な場合」「どちらかを選択できる場合」「両方を併用して行う場合」に分かれていますが、今までは血管内治療が必要な場合にはヘリコプターや陸路で広島や福山に搬送しなければならないこともありました。しかし今後は、三原地域の中で上記のいずれの治療も可能になります。

特に、心臓から流れてきた血栓で脳の血管が詰まる脳塞栓などの場合、時間との戦いになりますので、搬送が必要ない事は大きなメリットになります。また、一般的にカテーテル治療は切開手術に比べ患者さんの体の負担も少ないですから、2つの方法が競合する場合は双方のメリットデメリットをご理解いただいたうえで、患者さんの希望を考慮した治療もできるようになります。

心臓の治療では開胸して手術するのは心臓血管外科、カテーテル治療を行うのは循環器内科と別の科に分かれており、それぞれ非常に専門性が高い



ものです。同様に考えれば、単に脳外科の機械が一つ増えたというより、診療科が一つ増えたと言えるほどの幅の広がりが実現したと言えます。まとめますと、脳を治療するための武器が増えたことで「治療の質が上がる」「幅が広がる」「今まで三原で困難だった治療が可能になる」という事に尽きると思います。



山田記念病院 川本仁志副院長

1966年、広島県呉市生まれ。日本脳神経外科学会専門医、日本脳血管内治療学会専門医（更新中）

医療法人 社団 明清会
山田記念病院

三原市宮浦6-2-1
0848-67-4767

